

令和元年度 特別テーマ展関連講座

第2回講座
講義3

長井市の縄文時代中期後半の遺跡

岩崎 義信 氏 長井市教育委員会

令和元年7月7日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

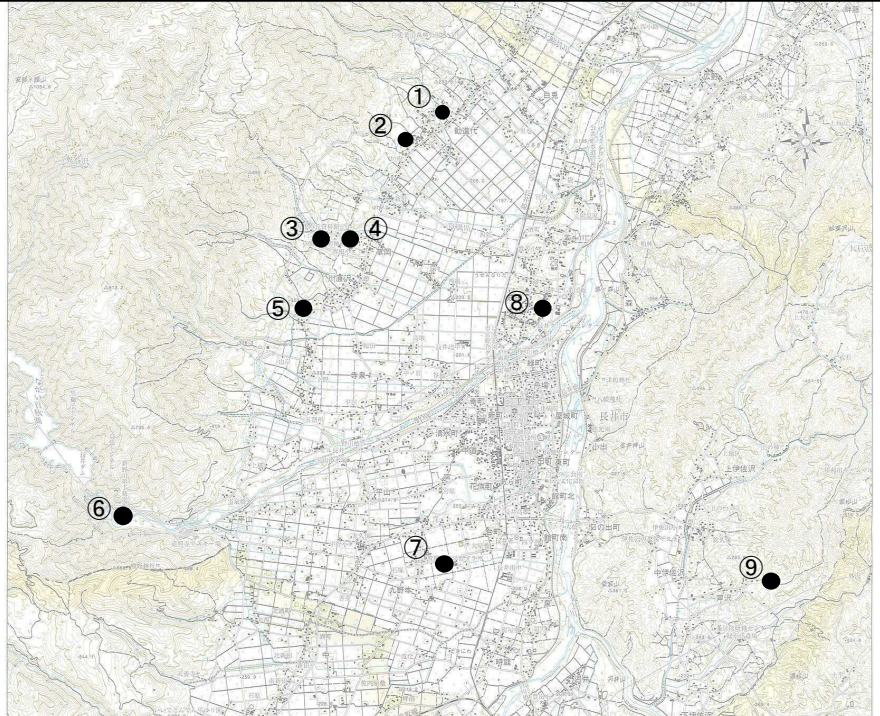
長井市の縄文中期 後葉の遺跡

長井市教育委員会
岩崎義信



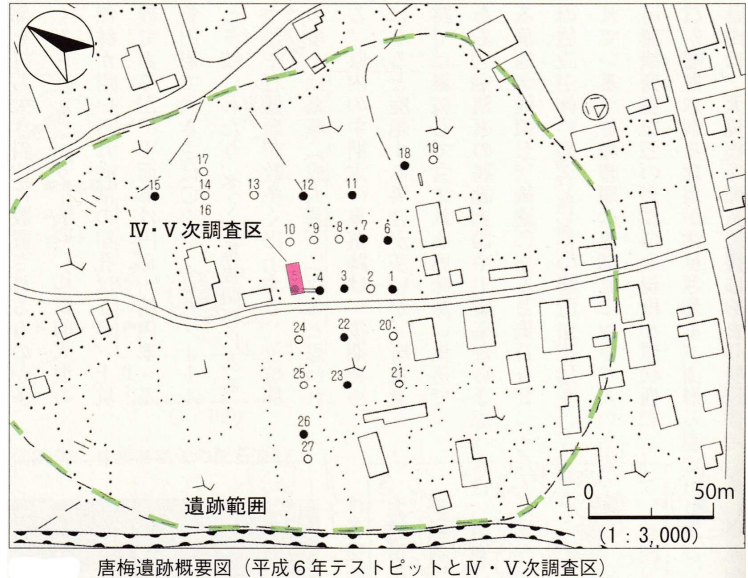
中期後葉の遺跡

- ① 唐梅遺跡
- ② 問答山遺跡
- ③ 長者屋敷遺跡
- ④ 中里B遺跡
- ⑤ 黒附遺跡
- ⑥ 空沢遺跡
- ⑦ 谷地寺遺跡
- ⑧ 塔様遺跡
- ⑨ 座須脇遺跡



唐梅遺跡

- ・昭和57年の遺跡詳細分布調査で発見された遺跡
- ・平成6・22年度に試掘調査
- ・遺跡範囲は東西180南北130m
- ・平成22・23年度 緊急雇用創出事業で発掘調査を実施
- ・調査面積は東西6m南北13mの78㎡
- ・遺構：集石51基・土壇39基・埋設土器7基他
- ・遺物：縄文土器・石器類・土偶・耳栓・円盤状土製品・石冠等が出土
- ・時期：縄文中後葉から後期中葉
- ・住居跡は未確認



平成22・23年度調査

- ・朝日山系のふもとに立地
- ・西から東に傾斜
- ・発掘体験学習の開催
- ・調査区北側で黒褐色土の上に褐色土の堆積を確認。褐色土は無遺物層で、後世の堆積土（洪水の土砂？）と推定される。
- ・集石を検出



遺跡近景



発掘体験学習



土層堆積状況



集石検出状況

集石

- ・ 包含層から縄文土器・石器類・土偶・石製品等多数出土。
- ・ 礫の密集箇所が多く検出されたが、礫の配置に規則性が認められず、集石とした。
- ・ 集石は土坑を伴うものと、伴わないものがある。
- ・ 覆土から石鏃や削器、凹石などの石器類が数多く検出された。



石棒出土状況



土偶出土状況



石鏃出土状況



16号集石検出状況



17号集石半割り状況

土坑

- ・ 集石下位から土坑が検出された。
- ・ ほとんどの土坑が重複関係にある。
- ・ 土偶や一括土器も出土している。



32号土坑半割り状況



32号土坑土偶出土状況



49号土坑土器出土状況



127号土坑土器出土状況



土坑検出状況

埋設土器

- ・土器は口縁を上、斜位の状態で検出された。
- ・礫の上に設置した土器もある。
- ・土器の口縁を打ち欠いたものもある。
- ・土器内部に扁平礫を内蓋状に設置したものもある。



29号埋設土器



30号埋設土器



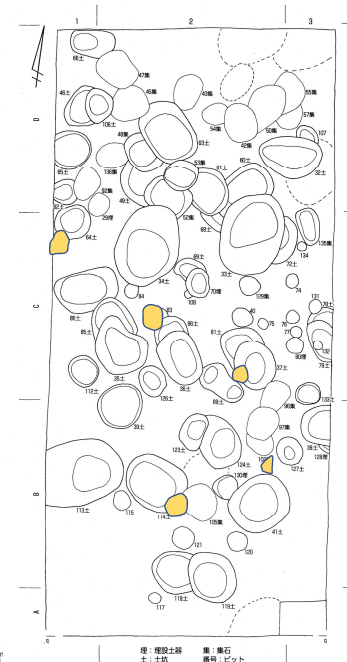
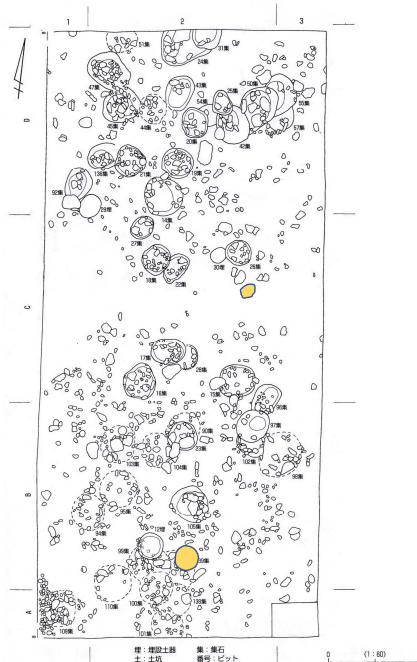
130号埋設土器



128号埋設土器

遺構配置図

- ・上位層から51基の集石を検出。
- ・規則的な礫の配置は確認されず。
- ・下位層から39基の土坑を検出。
- ・上位層から2基下位層から5基の埋設土器を検出。
- ・集石・土坑・埋設土器は調査区周囲に広がるものと考えられる。



中期後葉の土器



127号土坑



52号集石



30号埋設土器



61号土坑



70号埋設土器



130号埋設土器



128号埋設土器



49号土坑

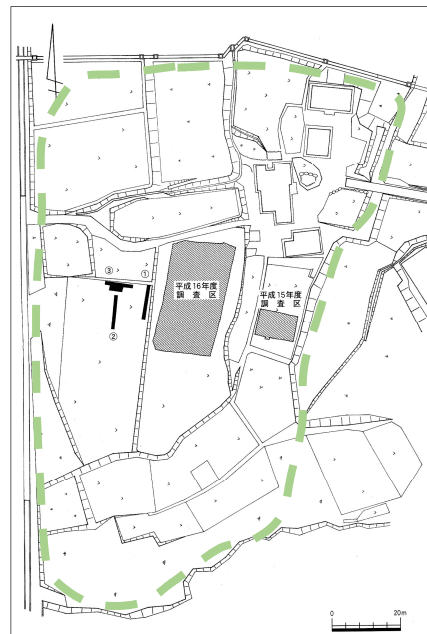
中期末から後期前葉の土器

問答山遺跡

- ・平成13年に発見された遺跡で、東西100m南北150mの遺跡範囲と推定される。
- ・平成15・16に発掘調査を実施し、住居跡・土坑・集石・埋設土器等が検出されている（平成16年度調査報告書は未刊行）。
- ・縄文時代中期後葉を中心に、中世の遺物も出土している。



遺跡近景



問答山遺跡概要図

問答山遺跡2号住居跡 (平成15年調査)



2棟の住居跡が重複し2号住居跡が古い。



複式炉



複式炉半割り状態

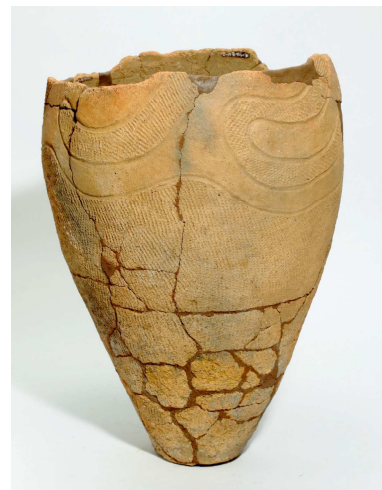
問答山遺跡2号住居跡炉埋設土器



炉埋設土器A



炉埋設土器B



炉埋設土器C

長者屋敷遺跡

第Ⅰ期 昭和52～57年（保存目的）

旧石器・縄文・弥生時代の複合遺跡。
住居跡16棟をはじめ土坑・集石他を
検出。

住居跡：縄文中期後葉12棟・晩期3
棟・前期1棟

第Ⅱ期 平成10年（市道改良工事）

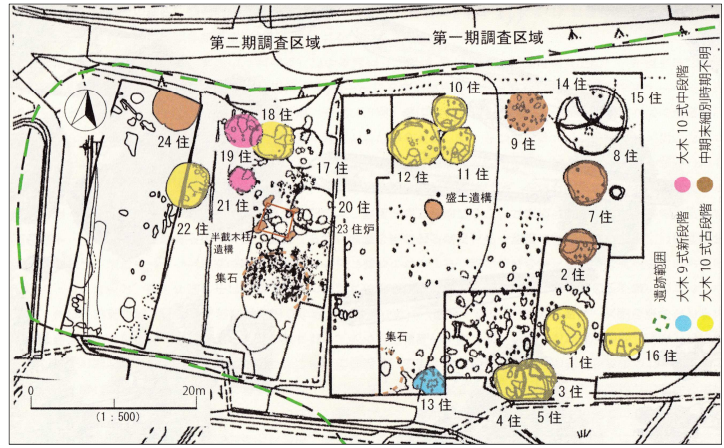
住居跡6棟・半截木柱遺構4基・土坑・
集石等を検出。

住居跡：縄文中期後葉4棟・不明2棟

第Ⅲ期 平成28年度（市道改良工事）

住居跡1棟土坑等を検出。

住居跡：縄文中期後葉1棟



長者屋敷遺跡概要図

『長井市史』（平成版）第1巻 原始・古代編より

昭和52年の調査

長者屋敷遺跡は発掘調査の後、埋め戻しが行われ遺跡公園として、利活用されている。



遺跡近景



復元された竪穴住居と半截木柱



1号住居跡



炉埋設土器A



炉埋設土器B



炉埋設土器C

昭和53年の調査



10号住居跡



11号住居跡



12号住居跡



12号住居跡

平成10年の調査



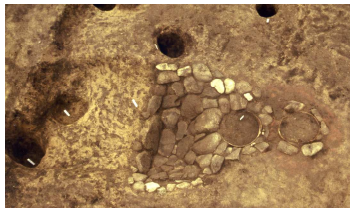
炉埋設土器A



炉埋設土器B



18号住居跡



複式炉



複式炉半割り

平成28年の調査

- ・床面の3条の周溝から、住居の建替えが想定される。
- ・石囲部にも土器が埋設される。
- ・炉跡の下位から古い炉埋設土器が検出された。



24号住居跡



炉埋設土器



炉埋設土器

下位の
炉埋設土器

複式炉半割り状態

半截木柱遺構（4本柱跡）



1号半截木柱遺構

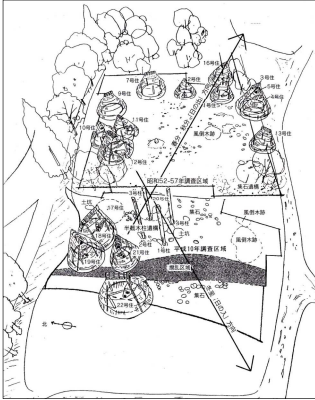


2号半截木柱遺構

- ・大型の柱穴から、木炭片を多く含む半円柱状の形態の黒色土を検出。柱穴の直径は0.8m前後で深さ約1m。
- ・柱穴の平面・断面形状から大型の半割状木柱が設置されていたと推測され、半截木柱遺構（4本柱跡）とした。
- ・半截木柱遺構は4基検出され、柱の直径は60～80cmで、ほぼ正方形の四隅に木柱が配置される。
- ・柱跡の痕跡から、弦面（割れ面）の向きに規則性がなく、住居の柱にはなじまない。柱配置と二至二分時期における日出・日入の方位に関わりがある。

4本柱と日出・南中

- ・春・秋分時：柱列の中央部から日出を確認。
- ・冬至時：対角線の延長方向に日没を確認。
- ・柱立ては周囲の集落と連携を図る行事か。



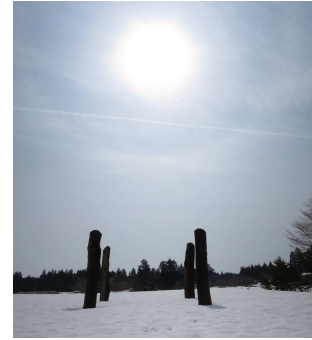
長者屋敷遺跡概要図



4柱の復元と立柱祭



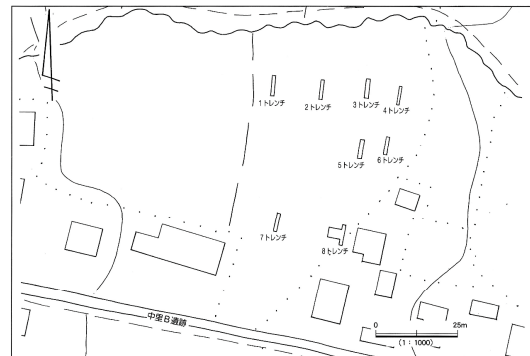
4本柱と春分の日出



4本柱と南中時の影

中里B遺跡

- ・昭和57年の分布調査で発見された遺跡。
- ・平成21年に試掘調査を実施。
- ・集石や埋設土器を検出。
- ・縄文後期前葉の遺物が主体で、中期後葉の大木9式土器が若干出土している。
- ・長者屋敷遺跡に続く時期の遺跡。



調査概要図



遺跡近景



11号配石遺構



12号配石遺構

黒附遺跡

昭和57年の分布調査で発見された。

平成22・23年に試掘調査を実施。

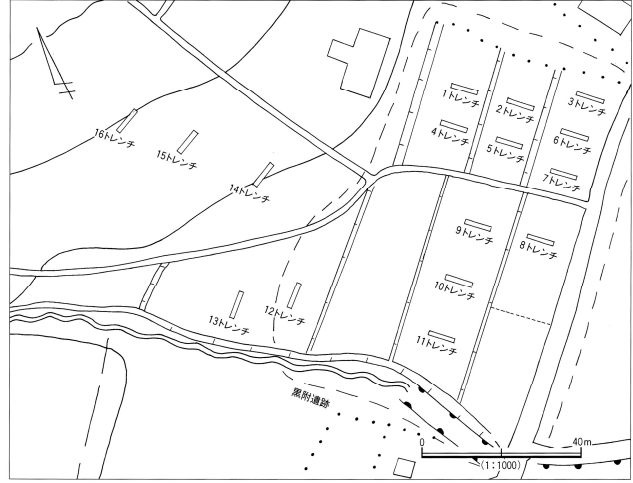
4・5トレンチで遺構検出。

10トレンチで埋設土器検出

縄文中期の大木9・10式土器が主体で、大木7b式土器も若干出土している。



遺跡近景



調査概要図



4トレンチ土層断面



10トレンチ遺物検出状況



4トレンチ遺物検出状況



4トレンチ出土土器



10トレンチ出土土器

空沢遺跡

- ・新野川第一発電所建設工事に伴い、平成15年に(財)山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施。
- ・縄文早期から晩期の遺物が出土し、特に後期の資料がまとめて検出された。
- ・縄文中期の複式炉を伴う竪穴住居1棟が検出された。
- ・中期後葉の土器も出土している。



竪穴住居ST82



竪穴住居の複式炉



調査区風景 (西から)



複式炉埋設土器

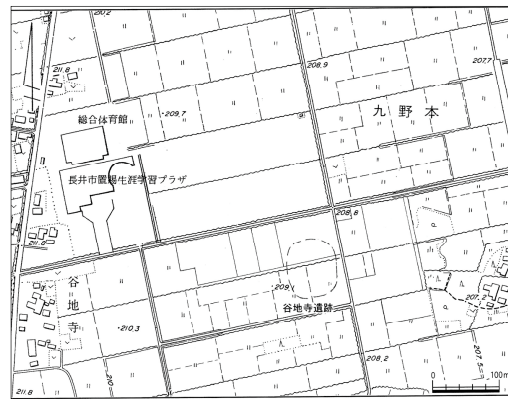
『空沢遺跡』
(財)山形県埋蔵文化財センター発掘報告書第144集
2005年より転載

谷地寺遺跡

- ・平成16年に発見された遺跡
- ・平成17・18年に試掘調査を実施し、縄文時代・平安時代の複合遺跡と確認。
- ・縄文時代中期後葉から後期前葉と、平安時代の遺物が検出された。



遺跡近景



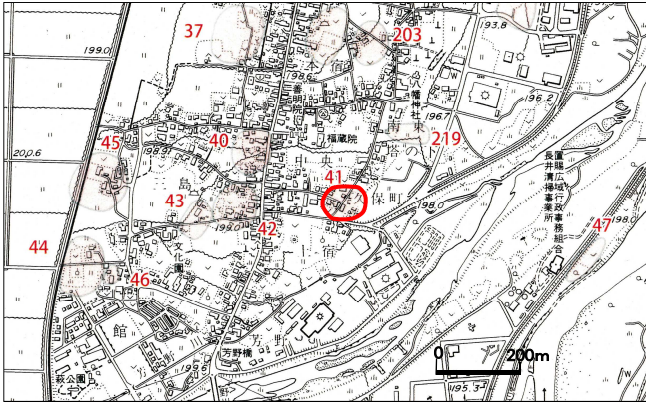
遺跡概要図



出土土器

塔様遺跡

- ・平成元年の分布調査で発見された遺跡。
- ・縄文時代中期後葉の土器と、平安時代の遺物が採集されている。



遺跡位置図



遺跡近景



採集土器

座須脇遺跡

- ・昭和62年の分布調査で発見された遺跡。
- ・平成5・16年の試掘調査で、縄文時代前期前葉と中期後葉の遺物が出土している。

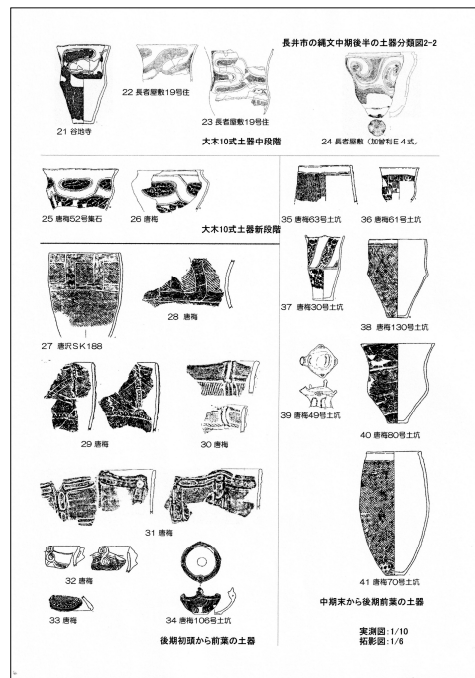


遺跡近景



調査概要図

長井市内の中期後葉の遺跡と時期区分									
遺跡名	唐梅遺跡	問答山遺跡	長者屋敷遺跡	中里B遺跡	黒附遺跡	空沢遺跡	谷地寺遺跡	塔様遺跡	座須脇遺跡
時期									
大木8b(古)									
大木8b(新)						•			•
大木9(古)									•
大木9(中)									•
大木9(新)	•	•	•	•	•				
大木10(古)	•	•	•		•	•	•	•	
大木10(中)	•	•	•	•	•		•		
大木10(新)	•			•					
後期初頭・前葉	•			•		•	•		



まとめ

- これまで長井市内で確認された縄文中期後半の遺跡数は9箇所である。
- 遺跡の多くは山麓沿いの地域に集中し、平地では河岸段丘や自然堤防の微高地で見つかっている。
- 大木10式期の各遺跡では複式炉の発達が著しく、当該期の特色のひとつとなっている。
- 長者屋敷遺跡で半截木柱遺構が検出され、柱列と二至二分時における日出・日入の方位が注目される。
- 多くの遺跡は大木10式土器の中段階で消滅しているが、唐梅遺跡や中里B遺跡では縄文中期末から後期前葉にかけての土器が出土し、移行期の遺跡として貴重な存在である。